

新たな北海道グローバル戦略（骨子案・事務局案）

第1章 本戦略の基本的な考え方

1 策定の趣旨

・道では、海外との交流の展開方向など、今後、北海道がめざす姿を道民の皆様と共有する指針として、2017年（平成29年）12月、「北海道グローバル戦略」を策定。

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う社会・経済情勢の変化や、ロシアによるウクライナ侵略など、刻一刻と変化する国際情勢の変化へ機動的に対応するため、2021年（令和3年）12月及び2023年（令和5年）9月に本戦略を改訂。

・米国による一連の関税措置をはじめとした政策転換や長期化するロシアによるウクライナ侵略、中東やアジアにおける動きなど北海道を取り巻く国際情勢はめまぐるしく変化し、多様なグローバル・リスクが顕在化する一方、経済・食料安全保障など本道が果たす役割への期待が高まる中、世界の中の北海道として、本道のめざす姿とその実現に向けた展開方向を道民の皆様と共有することはますます重要となることから、新たな北海道グローバル戦略を策定し、道民や市町村をはじめ多様な主体と連携し、国際関連施策を総合的に推進。

2 位置づけ

・北海道総合計画の特定分野別計画

・北海道がめざす姿とその実現に向けた展開方向を道民の皆様と共有し、国際関連施策を総合的に推進するための指針

3 推進期間

・2026年度（令和8年度）から2030年度（令和12年度）までの5年間

・世界情勢の変化等を踏まえて適宜見直し

第2章 前（現行）戦略の振り返り

・前戦略では「世界をより身近に、世界を舞台に活躍」をめざす姿として、また、「北海道の魅力が評価を受け、北海道ブランドが世界に浸透」、「人と人とのグローバルな絆の広がり」、「グローバルな視点を有して活躍する足腰の強い産業の育成」といった将来の北海道のイメージを示し、その実現に向け、「北海道の魅力や強みを生かした海外展開」、「世界と北海道をつなぐ環境づくり」、「世界情勢の変化への機動的で柔軟な対応」の3つを展開方向として、グローバル化に対応する取組を推進。

・推進期間中には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やそれに伴うデジタル経済の拡大、国際的なサプライチェーンの再編、ロシアによるウクライナ侵略など、これまでの想定を超える大きな国際情勢の変化を踏まえ2度の改訂を重ねるなど、大きな情勢変化に機動的に対応しながら国際施策を展開。

・本戦略の効果的な展開に向けては、有識者会議を常設化し、幅広い分野の有識者から意見を聴取。会議を通じて、国際情勢の変化による影響や課題について道が専門的な知見を得るとともに、道と関係団体が現状認識や各々の施策の方向性を共有しながら有機的に取

1 組を展開。

2 ・2017年の策定以降、輸出やインバウンドは拡大傾向にあったものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やウクライナ情勢、中国による日本産水産物の輸入停止などの社会経済情勢の大きな変化による影響を受け、一時的に大きく落ち込んだものの、リスク対応力の強化や多角化といった取組も進め、その水準を回復、上回りつつある状況。

6 ・世界を俯瞰すると、北海道の旅行先としての認知度は、東・東南アジアでは高い一方、米国や欧州、インド等では未だ低位に留まっており、本道の持続的な発展に向けては、今後は新たな市場においても北海道の認知度向上を図り、世界から産業、人、投資などを呼び込むことが必要。

10 ・外国人居住者が2017年の3万人から2024年には6万人へと倍増し、国際航空路線も便数が過去最多を更新するなど、戦略に掲げためざす姿に沿った変化が見られましたが、地域における担い手の不足は深刻であり、外国人材の定着には課題があるため、2027年から開始される育成就労制度に向けても、外国人材を受け入れる環境整備が必要。

14 ・道内輸出関連企業・団体においてリスク分散に向けた輸出先の多角化が進展したほか、食料・経済安全保障に関わる国の政策において本道の位置づけや求められる役割が明確化されるとともに、一層グローバル・リスクへの対応力を強化することが求められており、本道の優位性を生かした海外の成長力の取り込みが重要。

18 本戦略において実施した主な取組は次のとおり。

19

20 展開方向Ⅰ：北海道の魅力や強みを活かした海外展開

21 (1) 北海道ブランドの確立と戦略的活用

22 ・分野横断的に本道の魅力を発信

23 欧米やアジアにおける現地プロモーションの実施など

24 ・北海道ブランドの展開を推進

25 食・観光の展示会出展や国別の取組など

26 ・道内への投資促進に向けた取組の展開

27 セミナーの開催や視察支援など

28 ・国際イベント開催を促進

29 市町村の誘致活動や開催経費支援など

30 【主な関連指標の推移（道産食品輸出額、インバウンド）】

31 (2) グローバル・ネットワークの強化

32 ・デジタルを活用した交流を推進

33 SNSによる情報発信やオンライン会議活用など

34 ・道内企業等の現地活動を支援

35 友好提携地域との周年事業や海外事務所の運営など

36

37 展開方向Ⅱ：世界と北海道をつなぐ環境づくり

38 (1) 多文化共生社会の形成

39 ・住民同士の相互理解を促進

40 日本人と外国人の交流イベントの開催、地域日本語教育の体制整備など

- 1 ・外国人にも暮らしやすい地域づくりを推進
 2 外国人相談センターの設置運営など
 3 **(2) 人材・技術を活用した交流・協力の促進**
 4 ・外国人材の受入環境づくりを支援
 5 外国人材確保に向けたセミナー開催など
 6 ・グローバル人材の育成を推進
 7 道内の若者や高校生の海外留学の支援など
 8 **【主な関連指標の推移（外国人居住者数）】**
 9 **(3) 国際交通網の拡大・物流機能の強化**
 10 ・国際航空路線等の拡大を促進
 11 航空会社やクルーズ会社へのプロモーションなど
 12

展開方向Ⅲ：世界情勢の変化への機動的で柔軟な対応

- 14 **(1) 世界を視野に入れた力強い地域経済の確立**
 15 ・本道の自然・文化等の魅力を発信
 16 アドベンチャートラベルや縄文・アイヌ文化等の道の魅力の発信など
 17 ・GX・DX 関連産業の呼び込み、社会情勢の変化への対応に向けた取組を推進
 18 企業招へいや米国などとの新たな関係づくり、企業の生産拠点の移転やスマート技術
 19 の導入支援 など
 20 **(2) 海外展開・交流におけるリスクマネジメント**
 21 ・道内企業のグローバル・リスクへの対応力強化を促進
 22 輸出先の多角化やE Cの活用支援など
 23 ・迅速な情報共有の仕組みを構築
 24 有識者会議の常設化や知的財産に係るセミナー開催など
 25

○有識者の意見

- 27 (評価する点)
 28 ・国際情勢に応じた改訂や、輸出やインバウンド誘客の多角化、GX・DX や人材における
 29 呼び込みへの着手、有識者会議の常設化など変化を捉えた戦略推進を図ってきた。
 30 ・社会経済情勢の変化に応じて2度改訂するなど柔軟に対応。
 31 ・有識者会議の常設化により国際関連業界同士のネットワーク形成につながった。
 32 (改善点)
 33 ・多文化共生などを進めていく上で、振興局や市町村との連携強化は重要。
 34 ・北海道の成長推進の観点から、半導体や宇宙、GX・DX をはじめ、重点分野の明確化。
 35 ・外国人材などの分野について有識者を追加。
 36 (戦略の必要性)
 37 ・本道経済の発展には世界を意識することは不可欠であり、グローバル戦略を道標とし
 38 て示すことは重要。
 39 ・国際施策は多分野にわたるため、道の方針を全体的に俯瞰できる戦略は必要。
 40 (推進期間について)

- ・国際情勢に適切に対応するためには、8年では長く、5年程度が適切。
- ・半導体や宇宙、GX・DXなど特に変化が早いなど機動的に対応すべき分野を踏まえて期間を検討。

第3章 北海道を取り巻く世界情勢と現状

1 北海道を取り巻く世界情勢

(1) 市場動向・見通し

日本・世界の人口や市場の動向

(2) 国際関係

ウクライナや中東情勢、米国の関税措置をはじめとした保護主義による不確実性の高まり、EUやロシア、グローバルサウスなど世界の多極化の進展

(3) 世界的な潮流

企業に対する人権尊重行動の要請、AIやGX、DXなどの成長分野の動き

2 北海道の現状

(1) 人口・在住外国人

急速な人口減少と将来的な懸念、外国人住民の増加と課題

(2) 産業（全般、食、観光、DX、GX）

我が国の食料供給地域の位置づけ、豊富な観光資源、国内随一の再エネのポテンシャル、GX金融・資産運用特区、データセンターや国際海底通信ケーブル等のデジタルインフラの集積など本道の優位性や課題

(3) 国際交流を担う人材育成、支える基盤

グローバル人材の育成、交流基盤としての姉妹都市や道の海外事務所

第4章 展開方向

1 北海道のめざす姿

めざす姿 「世界を呼び込み、世界と地域がともに発展」(仮)

めざす姿の考え方

2 施策体系

展開方向1 外国人を引きつけ、共生する地域づくり

外国人の方々が訪れたいと思うとともに、地域への理解に立った働き暮らしやすい環境づくりを進め、外国人の方々の訪問や活躍を本道の地域の持続的な発展につなげる。

展開方向2 優位性を生かした投資・産業の呼び込みと世界目線の産業振興

本道の特性や食、観光、再生可能エネルギーなどのポテンシャルを発揮することで、海外の活力の呼び込みや経済交流を推進し、本道経済の活性化や世界の課題対応への貢献につなげる。

展開方向3 交流と協力による地域間のつながりの拡大

1 国際交流の基盤となるネットワークづくりや人材育成を進め、本道の特性やこれまで培
2 ってきた技術やノウハウを活用した協力や多様な主体による海外との豊かな交流の創出・
3 活性化につなげる。

4 5 **視点1 海外の活力を地域につなげる**

6 海外との交流を地域固有の特性や多彩な地域資源、地域ニーズにつなげる視点を持つ。

7 **視点2 リスクをチャンスととらえる**

8 グローバル・リスクに対する確かな分析・評価を行うなどリスクマネジメントを強化しな
9 がら、本道の発展にもつなげる視点を持つ。

10 **視点3 世界を俯瞰し相乗効果を創出**

11 分野や政策、国や地域などを俯瞰し、多様な主体と有機的に連携して施策を展開し、相
12 乗効果を得るという視点を持つ。

13 14 **3 展開方向**

15 **展開方向1 外国人を引きつけ、共生する地域づくり**

16 **(1) 外国人材の確保**

17 ①外国人材の確保支援と選ばれる環境づくり

18 ②北海道で働き暮らす魅力の発信

19 **(2) 地域における外国人との共生**

20 ①地域日本語教育の推進

21 ②外国人の安全・安心な生活環境づくり

22 ③多文化共生の必要性和理解促進

23 **(3) インバウンド**

24 ①多様な地域からの誘客促進

25 ②受入体制の強化・高度化

26 ③全道域通年観光の促進

27 ④地域社会との共生

28 ⑤旅行者の満足度向上

29 30 **展開方向2 優位性を生かした投資・産業の呼び込みと世界目線の産業振興**

31 **(1) 投資・産業振興**

32 ①地域と調和する産業・投資の呼び込み

33 ②GX 産業の拡大

34 ③デジタル関連産業の集積

35 ④半導体関連産業の振興

36 ⑤食料安全保障の強化

37 **(2) 海外展開**

38 ①市場の拡大とリスク分散

39 ②高付加価値化の推進

40 ③海外展開の裾野拡大

- 1
2 **展開方向3 交流と協力による地域間のつながりの拡大**
3 (1) 多様な交流
4 ①多様な交流の創出
5 ②国際協力の促進
6 (2) 人・地域のつながり
7 ①人的ネットワークの構築
8 ②国際航空路・航路の拡大
9 (3) グローバル人材
10 ①国際理解の醸成
11 ②外国語教育の充実
12 ③若者の留学支援
13
14 **4 北海道と世界各地との交流の方向性**
15 主な国・地域ごとの交流の方向性
16
17 **5 道内各地域における国際施策の展開**
18 地域における特徴的な取組の共有
19 道と市町村等が連携した取組の発信
20
21 **第5章 戦略の推進**
22 **1 推進体制**
23 市町村や企業・団体、関係機関など多様な主体との連携
24 庁内関係部局相互の連携促進
25 海外ネットワークの活用
26
27 **2 推進管理**
28 毎年度の政策評価等により管理
29 各年度の国際関連施策等を道のホームページ等で公開
30
31 **3 関連指標**
32 本戦略に関連する北海道総合計画の指標を参考掲載
33
34 **4 モニタリング数値**
35 本戦略の進捗のモニタリングに資する統計等数値を掲載